まや訓練風景

防火訓練

今回は、「防火訓練」の様子を紹介します。

通常、課業が終わると、当直員を残して乗員は各自の自宅へ帰宅します。艦内で火災が発生した場合、艦に残った当直員のみで消火にあたることになります。

火災発見者は、火災の発生を艦内に知らせるため、火災報知器を鳴らすとともに、大声で在艦員に火災の発生を知らせ、消火にあたる隊員を集めます。

速やかに初期消火を行い…

現場の指揮を執るため、在艦の幹部自衛官が現場指揮官として駆けつけます。

火災の拡大を防止するため、火災現場付近の可燃物を速やかに遠ざけます。（左図）

消火が開始されると感電防止のため照明を消すので、応急灯を設置します。（右図）

消火ホースを用意し、現場に突入します！

１分以内という基準があるため、鬼のようなスピードで準備が進んでいきます。

（右奥で訓練の様子を見ているのは指導官）

SCBA（自給式呼吸器）を装着した隊員「初期SCBA員」が、消火器で消火にあたっている隊員と交代します。

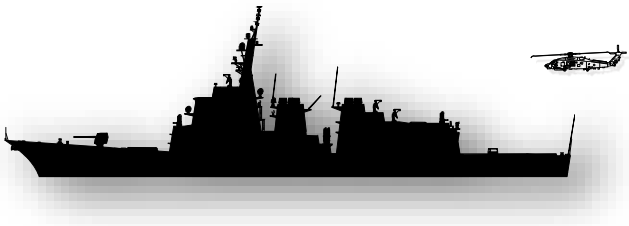
上図の「初期SCBA員」が消火中に、下図の「SCBA員」が準備を整えていきます。右が「ノズル員」で主に消火を行い、左の長い棒のような消火器具を持っているのが「アプリケータ員」といいます。棒の先端から水霧が放出され、火災からノズル員を守ります。

基本的にこの２人１組の構成で火災の制圧に向かいます。

「SCBA員」が現場到着後、「初期SCBA員」と申継ぎをして、消火作業を交代します。
「初期SCBA員」は健康状態の確認を受けたのち、他の作業に従事します。

防御連携姿勢（下図の姿勢）をとり、現場に突入します！
この時点で、SCBAを装着していない者は現場から退避していきます。
写真だとあまり分かりませんが、みんな汗だくです…

幹部の先任者は、艦内の見取り図を見ながら状況を総員に対して示達します。また、上級司令部・艦長・副長等へ報告を実施していきます。報告も、無線だけでなく、最近ではチャットも使用します。
時代は変わりましたね…



※ 写真・図・資料・その他の無断転載はご遠慮お願い致します。